２０２４年（令和６年）　１月３０日　火曜日

デーリー東北　１２面　掲載

第78回国スポ スケート・アイスホッケー 苫小牧

第78回国民スポーツ大会（国スポ）冬季大会スケート・アイスホッケー競技会は29日、北海道苫小牧市で3競技を行った。スピードは、成年男子500㍍決勝で俵山泰誠（TCラボ八戸）が7位入賞。今大会、青森県勢の入賞第1号となった。フィギュアの少年女子は、藤原愛大史（県競技力向上対策本部）が決勝へ進出。一方、菜（江陽中）が個人総合13位、聖前琴乃華（十和一高）が同14位で、都道府県対抗は5位。同カテゴリーでは5年ぶりの入賞を果たした。

スピードの少年男子1万㍍決勝では佐々木海地（八戸西高）が9位で入賞を逃した。成年男子1500㍍準決勝では連覇を狙う山本（市川中）が決勝に進んだ。

フィギュアの少年男子は都道府県対抗13位。成年男子は木村真人（スーパーゼビオスポーツ）がショートプログラム（SP）23位でフリーに進んだ。木村哲太（八学大）は同28位で敗退した。

30日はアイスホッケーが開幕。同市内で全4競技が行われる。

（磯野雄太郎、千葉達也）

成年男子ＳＰ28位

【フィギュア成年男子ショートプログラム】
35.52点で28位だった木村哲太（八学大）

木村（八学大）充実感と悔しさ

○…国スポ（国体含む）呼ばれた。だが、初出場のフィギュア成年男子で、木村哲太（八学大）はショートプログラム28位でフリー進出はならず。待ち焦がれた国スポで滑る充実感と久しぶりに青森県の名前が悔しさを味わった初舞台となった。

木村にとって国スポは憧れの舞台。エントリーに必要なもう1人がそろわず、少年期間の4年間、出場がかなわなかった。昨年の特別八戸国体では氷の補修に徹した。トップ選手の演技を見て、自分もいつかこの舞台に…という思いは強まった。

本番では、冒頭のフライングキャメルスピンは勢いが足らず減速し、三つ目のジャンプも失敗。それでも、堂々とした演技でまとめ上げ、「応援がなかったら大きなミスになっていたと思う」と声援に感謝した。

「目標にしていた40点に届かなかった」。悔しさをばねに、2年後の青森国スポまで成長を続ける。

デーリー東北新聞社提供